

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい(おおしま)		
所在地	蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	平成30年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	名古屋市守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

砥神(とがみ)山の麓に位置し、少し歩けば三河湾が一望できる山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂は吹き抜けで天窓があり明るくゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらへの参加や、近隣の学校の催し、地域で行なわれる花火大会の鑑賞等を楽しんでいます。施設での定期的な行事以外に、ドライブ、喫茶店等へ出掛け、好きな飲み物、おやつを食べ、お喋りをして気分転換を図り、日々の生活の一環である買い物、家事、入浴等は一緒に楽しめるように支援しています。誕生月の方には、してみたい事、行きたい所の希望を伺い、かなえられる様個別での対応と共に、月毎に全体でお祝いを行っています。地域の方、ご家族共に支え合う関係を保ち、毎日安心して過ごせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造平屋建て2ユニットで、屋根は吹き抜けがあり、広さの上に開放感が感じられるつくりとなっている。木材も地元こだわりの温かみを感じさせる構造となっている。家族アンケートには、「職員の異動が多い」とあったが、今は落ち着きを取り戻し、個々の職員のスキルアップが管理者の目標である。「60代の事務長の心遣いが暖かく、この方のないホームは考えられない」との家族アンケートの記載通り、管理者と事務長が両輪となって、うまいバランスで運営されているホームである。「より多くの家族から希望・要望を聞き出したいから」と、利用料を銀行口座引き落としせず、現金持参として、家族との触れ合い・家族の訪問の機会作りにも努めている。運営推進会議では事故報告やその原因・経過・医師の診断結果などが包み隠さず報告されている。一番重くて要介護度4で、全員が食事介助なしで、自室から出て食卓に集い、楽しいな会話と共に味わっていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい(たけしま)		
所在地	蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	平成30年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	名古屋市守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成30年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>砥神(とがみ)山の麓に位置し、少し歩けば三河湾が一望できる山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂は吹き抜けで天窓があり明るくゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらへの参加や、近隣の学校の催し、地域で行なわれる花火大会の鑑賞等を楽しんでいます。施設での定期的な行事以外に、ドライブ、喫茶店等へ出掛け、好きな飲み物、おやつを食べ、お喋りをして気分転換を図り、日々の生活の一環である買い物、家事、入浴等は一緒に楽しめるように支援しています。誕生月の方には、してみたい事、行きたい所の希望を伺い、かなえられる様個別での対応と共に、月毎に全体でお祝いを行っています。地域の方、ご家族共に支え合う関係を保ち、毎日安心して過ごせるように支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目の付く場所(トイレ、玄関)に理念を貼り出し常に意識をしています。月に1度の全員参加の会議時、理念の復唱、唱和を行ない、共有を図っています。	『じっくり』深く理解し、そのまま受け止め『しっかり』より穏やかで、安心で、自立して『ゆっくり』家庭的で、温かな雰囲気の中で一緒に楽しくを理念として掲げている。管理者は「近所と顔見知りになったり、小さな子供と連携を図ったりすること」が、地域密着のホームのあるべき姿だと考えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者との外出時には近所の方と挨拶を交わし、地域のお祭りへの参加、地域の方を招き青年団による伝統行事を披露、豚汁をふるまう等、地域の方との交流に努めています。資源回収にも協力しています。	「元々祭りが盛んな地域で、ホームでは地元青年団の伝統行事『黒ごま』を披露してもらった」と事務長は語る。地域の祭り・近隣学校の催し・地域の花火大会には入居者も参加している。管理者は「地域とも顔なじみとなり、グループホームへの理解も進んできた」と語り、無言で外出した入居者も近所の一報で事なきを得たと例を挙げる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方とも顔なじみになりグループホーム自体の内容も理解を得られるようになって来ました。今後も認知症のいっそうの理解や支援を得る事が出来る様地域のコミュニケーションに努めていきます。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催、その間に行なわれた施設行事や利用者の状況報告を行ない、内容についての意見を委員の方から1人ずつお聞きし、サービス向上にいかすようにしています。	職員、家族・ボランティア代表・民生委員・地域代表・地域包括職員・市職員をメンバーとし、隔月に年6回の開催が確認された。昨年の目標達成計画『週6回の入浴』も冬場以外は実行できた。継続的に行事報告・事故報告(詳細・原因究明・症状・経過・結果)が報告されている。外部評価結果の報告もされている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方にはホーム運営推進会議の委員として参加して頂いており、利用者の情報交換等色々な話が出来関係を築いています。また市に入る情報を役所訪問時に施設に提供して頂いています。	市役所には週一回事務長が出かけ、ホームの情報提供・要請・報告や、行政手続等連携を図っている。他のグループホームで、いいアセスメントシートがあることを聞き、ホームでも採用した。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、勉強会等で学んだ身体拘束の知識を、毎月の会議において全ての職員が再確認を行っています。玄関の施錠はしているが、外出を望む方の希望には、極力添える様にしています。	自己評価で「利用者の安全のために業務で行っていることが、拘束ともいえる場合があるとの自覚を促しています」とあったが、スピーチロックについては「なかなか徹底できない」と感じている。「玄関は施錠しているが、希望時には極力添えるようにしている」と管理者は語る。	訪問時玄関は施錠され、事務室の中からの操作で開錠された。「自分の意思で外出できない状態は指定基準違反である」旨を報告した。職員一同で衆知を集め、今一度拘束解除に取り組まれるよう期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月1回の会議において勉強会を実施しており、「虐待」がテーマ時は、特に「言葉の虐待」について注意を喚起しています。業務の中でも職員同士がお互いの業務内容を振り返り、虐待を防ぐ体制作りにも努めています。			

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8				○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護の内容を理解し、この制度について研修、勉強会等で学ぶ機会を持ち、それらを必要とされる利用者に対し、活用出来るように支援していきます。			
9				○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者の状況に応じ、時間を掛け分かりやすく説明を行なうよう心掛けています。説明後は不安点や疑問点をしっかりと確認しています。			
10	(6)			○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、家族会の開催時に家族と会議を行い、意見、要望をお聞きし、内容を皆さんと討論し運営に反映させています。その後スライドで一年を振り返り、食事をとりながら利用者、家族共に楽しく過ごされています。	年一回は家族会を開催し、日ごろの入居者の様子をスライドで発表し、好評を博している。担当者以外でも職員は入居者の現状を把握しており、どの家族の要望にも応えられる。家族向けのホーム便りは毎月発行され、届けられている。		
11	(7)			○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第2火曜日の夜、施設会議を実施し利用者個々の状況確認を行なっています。運営に関しては、全職員に問題点や効率化の提案をして頂き、検討を図っています。	管理者は週2回は職員と面談し、話を聞いているが、主に人間関係の悩みが多い。「運営に関してはすべての職員に問題点・効率化の提案をしてもらい検討している。」と語り、その実例として、日々の掃除分担表採用・個々に応じた入浴方法の取り組みを挙げた。		
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2回、経営者と職員個人との面接を実施しています。その時に業務内容及び人間関係等の不満があるかの確認と、今後の業務でしていきたい事などを確認し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。			
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の施設会議において、スキル向上の勉強会を実施しています。近隣のグループホーム協会での研修にも、積極的に参加をしています。			
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、近隣のグループホーム29施設で、輪投げ大会を実施しており、その時に色々な情報交換を行っています。			

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に、これまでの生活状態や本人の全体像を把握できるように話を伺い、入所後は本人が安心して新しい生活になじんで頂くような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、家族の不安、御要望等をお聞きし、利用者との関係を大切にしながらサービスを提供出来るよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のご要望及び情報、今までの担当者からの情報を把握し「その時」必要な支援を見極め、それに応じたサービスを提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で利用者の「出来る事」「やりたい事」を、利用者同士や職員と一緒にしない、共同生活を行なう仲間としての関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の「はっぴいだより」の発行や、ブログでの近況報告、行事予定を伝えると共に、面会時には、利用者の現在の状況を報告し、家族と共に利用者を支えていけるような関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時のアセスメント、日常会話の中から本人のこれまでの人間関係や場所の情報を把握し職員間で共有、家族の協力も得て外出等を行ない、関係の継続に努めています。	入居者の内、地域出身者は二割弱である。昔からヨガをやっていた人は、自分流のヨガを行ったり、洋服の仕立てが得意であった人は、今も裁縫している。墓参りを希望する入居者には家族に伝え実現した。「家の様子が見たい」と言う人はホームの車でお連れした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者個々の状態を共有、把握し、利用者の孤立、利用者間の理解不足を防ぎ、利用者同士お互いが支え合う関係を築く事が出来るよう、支援に努めています。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22				○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去されても、近隣である為近況が分かる事が多く、必要時には相談に応じ、支援させて頂いています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントに加え、日々の生活の中で利用者個々の思いを汲み取り、得た情報はPC記録、申し送り、カンファレンスにて職員間で共有を図っている。	職員のスキルに差があり、入居者の些細な変化から原因を見つけ出す能力向上が、管理者の目標である。そのため、今は「余分な憶測を交えず、とりあえず現象だけを伝えて。」と職員に話している。日々の気づきはパソコンに入力し、申し送りノートに記載し、カンファレンスにかけ、共有化を図っている。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族からこれまでの生活歴、現在の生活環境、サービス利用状況の話を伺うと共に、利用していた事業所からも情報の提供をして頂いている。			
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々で利用者さんの状況を把握し、申し送りと共にPC入力記録を行い、全職員がいつでも確認出来るようにしている。周知が必要な事は、事務所保管の申し送りノートに記入し、サインチェックを行っている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン実施表にて毎日チェックを行い、担当職員が評価、ケアカンファレンス時に計画の見直しを図っている。本人、家族には随時お話を伺うと共に、作成した計画の承認を得ている。	カンファレンスは主に管理者・職員・計画作成担当者・看護師により、週一回行われている。家族の意見を聞くために、利用料をあえて引き落としにせず、現金持参してもらい、家族の希望を聞くチャンスとして役立てている。『ケアプラン実施表』により、毎日チェックし、カンファレンス・会議で見直しを図っている。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子をその都度PC入力にて個別に記入、職員間で情報の共有を図ると共に、ケアプラン実施表にて毎日チェックを行ないカンファレンス、会議にて見直しを図っています。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況の変化に応じた外出支援、医療機関受診、ボランティアの受け入れ等柔軟な対応を行なっています。			

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29				○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お抹茶、読み聞かせのボランティアの方が来て下さったり、消防と協力し防災訓練を行なう等、暮らしを安全で楽しむ事が出来るように取り組んでいます。			
30	(11)			○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1/4W、内科医の訪問診療を受けられています。通院、他科受診は家族対応をお願いしていますが、難しい場合は職員が付き添い、結果を家族に報告しています。	入居時に利用者と家族に確認し、多くの入居者が提携医をかかりつけ医としている。専門医への通院は原則家族対応だが、話し合いにより職員が対応することもある。看護職員が非常勤勤務しており、医療面での相談に応じている。		
31				○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は入居者の日々の心身の状態を観察、1/週、看護職員に報告し指示を仰ぐと共に、必要時には主治医に報告し、適切な受診や看護を受けられる様支援しています。			
32				○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に伺い、病院関係者に状態を確認、利用者にとって最善と思われる状況を見極め、安心して退院できるよう支援しています。			
33	(12)			○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期におけるあり方について家族に意向を確認、事業所として現在は看取りはしない事を説明し同意を得ています。医療機関と連携を取り、他施設に移動時は本人や家族に不安を与えないよう支援しています。	入居時に指針を説明し看取り介護はしないことについて理解を得ている。重度化に応じて常に家族と話し合い、医療機関とも連携し、あらかじめ準備をしていくことにより家族の不安を軽減するよう努めている。		
34				○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して対応しているが、事故発生時にはカンファレンス、会議等で事例検討を行い、原因を究明し随時見直しを図っています。			
35	(13)			○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜間時の火災想定避難訓練を消防署立ち会いの下行なっています。備蓄用品は備蓄用倉庫に準備し、ローリングストック法を実践、各居室入口には頭巾を設置しています。	避難訓練には消防署の職員に参加してもらい様々なアドバイスをいただいている。運営推進会議の出席者にも訓練に参加してもらい防災意識を高めている。今年度中に自動通報装置が設置される予定。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんに尊厳の気持ちを持った声掛け、話し掛けで対応しています。申し送り時は個々のプライバシー保護の為場所等を配慮し、排泄関係の言葉掛けは入居者さんの羞恥心に配慮するよう心掛けています。	居室には声かけ、ノックをして承諾を得てから入室するよう職員に指導している。入居者の立場になって、どんなことをされると嫌か、などをよく考えて工夫してお一人お一人を接するよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自分の思いや希望を自己決定出来るように声掛けをしています。自己決定が難しい方に対しては、生活歴を把握し、本人の表情、仕草から読み取る努力を行なっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	1日の流れは概ね決まっていますがそれにとらわれずに、各個人のペースを大切にしています。食事、外出、入浴等希望に添えるよう努め支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、個々の好み、身体状況にあったその人らしい身だしなみ、お洒落を、難しい方は本人の意向を伺い、一緒に服選びをしています。なじみの美容院がある方には、送り迎えの支援を行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を把握し献立に取り入れ、一緒に買物、食事準備、後片付けを行なっています。七草粥、鏡開き、煮しめ等は利用者さんに調理法をアドバイスして頂くこともあります。	できる範囲内で食事の準備や片付けなどを入居者と一緒に行っている。管理者が栄養士であり献立を作成しており、入居者の希望も多く取り入れるようにしている。外食やバーベキュー、誕生会など食事を楽しむ企画を実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつは栄養バランスに配慮し、個々に合った量、形態で提供しています。起床時、入浴後の水分補給、自己管理の可能な方は水筒を用意し、お茶を提供、毎日交換を行なっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時には、職員が付き添っています。口腔状態により歯間ブラシ等を利用し、夜間は義歯を外し定期的に義歯、口腔ケア用品の消毒を行ない、口腔内の清潔保持に努めています。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、各個人に合った対応、支援をしています。個々に適した衛生用品を勧め、排泄に関して、利用者が精神的な負担を負わないよう支援しています。	排泄パターンを把握して声かけ対応等しており、紙パンツから布パンツへ変更できた入居者もいる。布パンツにこだわることなく、入居者ごとに最適な方法を常に検討し実施し、夜間もぐっすり休んでいただけるよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶はポットに常に飲めるよう用意しており、食事時以外でも起床時、入浴後、その他随時水分補給を行っています。朝食時には乳製品を摂取、献立は、水分や繊維の多い食材を取り入れる工夫を行なっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の大きな設定はありますが、無理強いはいらないよう心掛けています。季節に応じてゆず湯、菖蒲湯等バリエーションを変えて楽しんで頂き、入浴後の髪型セット時、アレンジをして喜んで頂く事もあります。	入浴順を工夫して、気の合う入居者が脱衣所で顔を合わせられるようにしたりと、気持ちよくお風呂を楽しんでいただけるよう努力している。菖蒲湯やゆず湯など季節の入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションへの参加、散歩、買物等により生活リズムを整えるように努めています。個々の状況に応じエアコン、湯たんぽ、雨戸等を使用し、眠剤等を使用しないで休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容を全職員が確認出来るようにファイリングしています。薬は1回毎に分包し、名前、服薬時間を記入、朝食後薬には赤線で印を付け、服薬時は利用者と共に確認、飲み終わりも確認を行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事に関しては、利用者個々の出来る範囲で職員と一緒に準備、調理、後片付けを行なっています。誕生日には外食、嗜好品を楽しまれ、お抹茶、読み聞かせ等のボランティアを定期的に楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩においては、歩行困難な方は車椅子を使用、買物、回覧板は利用者と一緒に掛けています。なじみの美容院への送り迎えの支援、なじみの場所へのお出掛けは、家族と相談し行なっています。	ホームの車で遠出をすることもあり、その際には気のあう入居者が一緒に行けるように調整し、外出を楽しみにしていただけるよう努めている。身体の状態に応じて、気分転換のためにも買い物などに出かけられるようにしている。	

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50				○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の個々の持てる力に応じて買物を楽しんで頂き、支払いをして頂く機会を作っています。自己管理が可能な方は少額のお金を自己管理されています。			
51				○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は、事務所の電話を使用して頂いています。手紙のやり取りを希望される方には、その都度必要品を準備し、手紙、はがきを書いて頂き、ポストまで職員と一緒に行き投函されています。			
52	(19)			○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物内は木を多く使用している為、落ち着きがあり、窓は大きく日光を十分取り入れる事が出来る為明るいです。広さに余裕があり、主要道路から少し離れている為静かで過しやすい環境になっています。	木造建築の平屋で天井が高く、窓も大きくとても明るいホームである。大きな日めくりカレンダーで日にちの感覚を大切に。廊下には入居者の様々な作品を飾り付け、楽しい空間づくりのための努力をしている。		
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールにあるテーブルや椅子は大きめでゆったりとしています。全人数分が座る事の出来るソファが置いてあり、会話を楽しめたり、1人で過す事も出来るように配慮しています。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人の使い慣れ親しんだ家具等を持って来て頂き、家族写真を飾る等、各部屋様々な工夫をされています。入口に暖簾を掛け、扉が開放されつつもプライバシーは守られる工夫をしています。	家族に協力を依頼し、使い慣れた家具等を持ち込んでいただいている。居室にクローゼットや洗面台も備え付けがある。居室の入り口には表札がわりに花の名前をつけて入居者に自分の居室を理解しやすいように工夫している。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の移動は個々の持てる力を活用し、不安のある方は車椅子やシルバーカーを使用させて頂いています。本人の出来る範囲で、食事準備、掃除、洗濯物片付け等の家事をされています。			